

インターバンクの声（2015年11月2日）

10月の最終営業日となった週末の海外市場は、日銀の追加緩和が見送られたものの、政府の補正予算検討を好感して円が売り戻された後、再び円買い地合いとなった展開からもう一度円売りに戻ることはなかった。アナリストを中心に注目された米7-9月期の雇用コスト指数の結果は予想通りだったが、9月の米個人所得・消費支出が下振れし、10月ミシガン大学消費者信頼感指数が事前予想を下回ったことがドル買い・円売りを躊躇させる決定打になった。こうした経済指標結果に、米連邦準備理事会（FRB）が12月会合で利上げするかどうかもますます不透明になってきている。そろそろ毎月恒例となっている米雇用統計に振り回されることから卒業したい市場参加者も多いと思われるが、12月の利上げを見通すには今週末と来月早々の結果を確認しないわけにはいかない。ドル売り志向の市場参加者が多いとはいえ、ドル円の119円台やユーロ・ドルの1.11ドル台では積極的なドル売りも仕掛け難いようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。